



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月13日

上場会社名 ナイル株式会社 上場取引所 東
コード番号 5618 URL <https://nyle.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）高橋 飛翔
問合せ先責任者 （役職名）取締役 コーポレート本部本部長 （氏名）長澤 斉 TEL 03 (6682) 9692
半期報告書提出予定日 2026年8月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年12月期中間期	3,738	17.3	△87	—	△106	—	△99	—
2025年12月期中間期	3,186	—	△96	—	△113	—	△111	—

（注）包括利益 2026年12月期中間期 △99百万円（—％） 2025年12月期中間期 △111百万円（—％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	△11.67	—
2025年12月期中間期	△13.12	—

（注）2024年12月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年12月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年12月期中間期	3,398	339	9.6
2025年12月期	3,142	443	13.6

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 326百万円 2025年12月期 425百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	0.00			
2026年12月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	7,500	11.4	3	—	△38	—	△74	—	△8.67
	～7,900	～17.4	～250	—	～211	—	～167	—	～19.56

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2026年12月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年12月期中間期	8,536,800株	2025年12月期	8,536,800株
2026年12月期中間期	一株	2025年12月期	一株
2026年12月期中間期	8,536,800株	2025年12月期中間期	8,536,800株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況 (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(重要な後発事象)	10

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）当中間期の経営成績の概況

当社グループは「幸せを、後世に。」のミッションの下、社会に根付く事業作りを通じ、時代を超えて人々の幸せに貢献します。また、豊かで幸せな未来を次の世代に紡いでいくため、ビジョンを「日本を変革する矢」とし、絶え間なき自己変革を繰り返しながら、日本を良くするための事業に挑戦し、日本のDX課題を解決する「産業DXカンパニー」として、各種事業を展開しております。

創業以来、当社グループはDX及びマーケティングを中心にインターネットを活用した各種技術・ノウハウを蓄積し、その強みを活用して、「自動車産業DX事業」及び「ホリゾンタルDX事業」を運営しております。今後も様々な領域で画期的な事業を創出し、デジタルマーケティングの知見を駆使した事業づくりを通じて、社会をより良く変えていくべく取り組んでまいります。

当中間連結会計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の拡大などを背景に、緩やかな回復基調が継続しております。一方で、物価上昇の長期化による個人消費への影響に加え、中東地域をめぐる情勢や金融資本市場の変動、米国の通商政策の動向など、景気の先行きについては引き続き注視する必要があります。

このような環境のなか、自動車産業DX事業においては、中東情勢を背景に中古車の輸出需要が減速する中でも、既存顧客による月額収益の継続的な積み上がりに加え、与信審査に通らない層の取込み強化及び顧客獲得効率の向上に努めた結果、大幅な増収を実現いたしました。ホリゾンタルDX事業においては、高い顧客満足度と契約社数の増加に加え、デジタル広告運用サービスの販売拡大を背景に、売上高は堅調に推移いたしました。全事業を通じて売上高の伸長及び費用の最適化を進めた結果、営業損益は前中間連結会計期間から改善し、通期黒字化に向け着実に進捗しております。

その結果、当中間連結会計期間における売上高は3,738,813千円（前年同期比17.3%増）、営業損失は87,987千円（前年同期は営業損失96,352千円）、経常損失は106,049千円（前年同期は経常損失113,372千円）、親会社株主に帰属する中間純損失は99,636千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失111,991千円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①自動車産業DX事業

自動車産業DX事業は、当社グループのコアコンピタンスであるDX及びマーケティングの知見を活かし、非合理が多い車販売市場のDXを「オンライン」と「オフライン」の双方からアプローチすることで、自動車業界全体のDXを推進しております。当事業を通じて「自動車流通DXの経済圏」の形成を主導し、車を「買う・乗る・売る」までのカーライフサイクル全体を包括的に支援する体制を構築しております。

オンライン領域では、マイカーサブスクリプションの「カルモくん」を運営しております。「カーリースカルモくん」は、店舗を持たず全ての手続きをオンラインで完結できるスキームを構築し、個人向けに新車・中古車のカーリースを提供しています。マイカーを月額1万円台から持てる日本最安値水準の価格設計に加え、1年～11年の柔軟な契約期間、さらには車検・税金・メンテナンス費・自動車保険・故障保証など、ライフスタイルに応じた付帯サービスも定額で選択可能とすることで、LTVの最大化を実現しています。

ビジネスモデルとしては、初年度に広告宣伝費を投入して新規顧客を獲得し、契約時における初期紹介手数料としてスポット収益を計上することで、広告投資の即時回収を図っております。その後は契約期間中の月額課金により安定収益を得つつ、契約満了後の車両再リースや買い替えにより追加収益を得る、3層構造の収益モデルとなります。このモデルにより、広告投資の即時回収と、中長期的な月額収益の積み上げを両立しています。

また、当事業は長期契約と非常に低いカスタマーチャーンレートにより、契約残高が安定的に積み上がるビジネスモデルとなっており、蓄積された契約残高に基づき、将来にわたって継続的な売上創出が見込まれる強固な基盤を構築しております。

一方、オフライン領域では、連結子会社である株式会社パティオを通じて、地域密着の対面サポートや整備・板金機能といった実店舗ならではの安心感を提供しております。同社に対し、ナイル独自のDXやAIのアセットを注入することで、生産性と収益性を高める店舗経営へと深化させております。今後は、この「自動車販売店DXモデル」を全国の中古車販売店へ水平展開するロールアップ戦略を推進し、自動車流通における市場のアップデートを加速してまいります。

当中間連結会計期間においては、既存顧客による月額収益の着実な積み上がりに加え、与信審査に通らない層の取込み強化及び顧客獲得効率の向上に努めた結果、前中間連結会計期間比で増収を達成いたしました。一方、中東情勢を背景に中古車の海外輸出需要が一時的に減退し、一部の業者間販売に影響が生じたものの、増収効果や費用の効率化により、セグメント損失は前中間連結会計期間から大幅に縮小いたしました。なお、中東情勢の動向については引き続き注視が必要なものの、顧客層の拡大や費用の効率化を通じて、損益の一層の改善を図つ

てまいります。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は2,494,742千円（前年同期比20.0%増）、セグメント損失は116,727千円（前年同期はセグメント損失189,858千円）となりました。

②ホリゾンタルDX事業

ホリゾンタルDX事業は、創業以来培ってきたDXやデジタルマーケティングに関する技術・ノウハウを強みにして、顧客企業に対するコンサルティングサービスを軸にしつつ、生成AI活用支援、プロフェッショナル・ネットワークによる戦略実行支援、メディア運営、デジタル広告ソリューションなどを通じた包括的なサービスを展開しています。顧客の課題・ニーズに応じて、当社グループが持つソリューションを組み合わせ、戦略から実行まで一気通貫で支援を行っています。

当中間連結会計期間においては、コンサルティングサービスの拡充及びデジタル広告運用サービスの販売拡大が寄与し、売上高は堅調に推移いたしました。加えて、新サービスとしてAI人材マッチングサービス「Nyle AI Partners」及び個人向け実務特化型AIスクール「With AIアカデミー」の提供を開始し、中長期的な収益源の更なる多角化に取り組んでおります。一方、セグメント利益は前中間連結会計期間を下回る結果となりましたが、引き続き費用の見直しを進め、事業の収益性を高めてまいります。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は1,244,071千円（前年同期比12.4%増）、セグメント利益は193,910千円（前年同期比26.4%減）となりました。

（2）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は2,877,056千円となり、前連結会計年度末に比べ264,845千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が174,144千円増加、売掛金及び契約資産が77,069千円増加、商品が7,021千円増加したことによるものであります。固定資産は520,962千円となり、前連結会計年度末に比べ9,094千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が9,814千円増加、無形固定資産が3,069千円減少、投資その他の資産が15,838千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,398,019千円となり、前連結会計年度末に比べ255,751千円増加いたしました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は1,653,227千円となり、前連結会計年度末に比べ90,089千円増加いたしました。これは主に買掛金が15,895千円増加、1年内返済予定の長期借入金が41,243千円増加したことによるものであります。固定負債は1,405,025千円となり、前連結会計年度末に比べ269,864千円増加いたしました。これは主に長期借入金が271,444千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、3,058,253千円となり、前連結会計年度末に比べ359,953千円増加いたしました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は339,766千円となり、前連結会計年度末に比べ104,201千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する中間純損失を99,636千円計上したことによるものであります。

（3）当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は1,258,798千円となり、前連結会計年度末に比べ164,144千円の増加となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により減少した資金は、66,190千円（前中間連結会計期間は245,370千円の減少）となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失98,433千円の計上、売上債権及び契約資産の増加77,069千円、リース債権の増加39,106千円、契約負債の増加75,631千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は、52,322千円（前中間連結会計期間は46,888千円の減少）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出140,000千円、定期積金の払戻による収入100,000千円、長期性預金の預入による支出100,000千円、長期性預金の払戻による収入75,000千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は、281,804千円（前中間連結会計期間は107,264千円の増加）となりました。これは主に、長期借入れによる収入650,000千円、長期借入金返済による支出337,313千円によるものであります。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の連結業績予想につきましては、2026年2月13日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

（1）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,225,454	1,399,598
売掛金及び契約資産	502,650	579,720
商品	551,117	558,139
その他	344,668	352,463
貸倒引当金	△11,680	△12,865
流動資産合計	2,612,211	2,877,056
固定資産		
有形固定資産	121,216	131,030
無形固定資産		
のれん	32,616	29,695
その他	745	596
無形固定資産合計	33,361	30,291
投資その他の資産	375,478	359,640
固定資産合計	530,056	520,962
資産合計	3,142,268	3,398,019
負債の部		
流動負債		
買掛金	134,716	150,612
短期借入金	329,900	300,000
1年内返済予定の長期借入金	510,109	551,352
未払法人税等	2,480	1,240
賞与引当金	22,734	25,836
その他	563,198	624,187
流動負債合計	1,563,138	1,653,227
固定負債		
長期借入金	1,113,236	1,384,680
資産除去債務	8,169	8,169
その他	13,755	12,175
固定負債合計	1,135,161	1,405,025
負債合計	2,698,299	3,058,253
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	596,582	596,582
利益剰余金	△180,634	△280,270
株主資本合計	425,948	326,311
新株予約権	18,020	13,454
純資産合計	443,968	339,766
負債純資産合計	3,142,268	3,398,019

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年1月1日 至 2026年6月30日）
売上高	3,186,784	3,738,813
売上原価	2,009,523	2,468,256
売上総利益	1,177,260	1,270,557
販売費及び一般管理費	1,273,613	1,358,544
営業損失（△）	△96,352	△87,987
営業外収益		
受取利息	520	1,400
為替差益	176	—
その他	184	306
営業外収益合計	881	1,706
営業外費用		
支払利息	14,829	17,522
為替差損	—	1,944
支払手数料	3,000	—
その他	72	302
営業外費用合計	17,901	19,769
経常損失（△）	△113,372	△106,049
特別利益		
新株予約権戻入益	1,294	7,616
特別利益合計	1,294	7,616
税金等調整前中間純損失（△）	△112,078	△98,433
法人税、住民税及び事業税	1,240	1,240
法人税等調整額	△1,327	△37
法人税等合計	△87	1,202
中間純損失（△）	△111,991	△99,636
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△111,991	△99,636

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年1月1日 至 2026年6月30日）
中間純損失（△）	△111,991	△99,636
中間包括利益	△111,991	△99,636
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△111,991	△99,636

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失 (△)	△112,078	△98,433
減価償却費	6,871	8,219
のれん償却額	2,920	2,920
新株予約権戻入益	△1,294	△7,616
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,297	1,185
賞与引当金の増減額 (△は減少)	8,923	3,101
受取利息及び受取配当金	△523	△1,403
支払利息	14,829	17,522
為替差損益 (△は益)	1,925	△852
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△108,495	△77,069
リース債権の増減額 (△は増加)	△3,042	△39,106
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△142,248	△3,256
仕入債務の増減額 (△は減少)	23,198	15,895
契約負債の増減額 (△は減少)	44,463	75,631
その他の資産の増減額 (△は増加)	36,940	69,287
その他の負債の増減額 (△は減少)	△5,920	△15,694
その他	3,187	3,255
小計	△228,044	△46,412
利息及び配当金の受取額	523	1,403
利息の支払額	△15,440	△18,701
法人税等の支払額	△2,408	△2,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	△245,370	△66,190
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△40,500	△140,000
定期預金の払戻による収入	47,800	40,000
定期積金の預入による支出	△40,000	△10,000
定期積金の払戻による収入	—	100,000
長期性預金の預入による支出	—	△100,000
長期性預金の払戻による収入	—	75,000
有形固定資産の取得による支出	△10,695	△16,822
その他	△3,493	△500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,888	△52,322
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	170,000
短期借入金の返済による支出	△300,000	△199,900
長期借入れによる収入	500,000	650,000
長期借入金の返済による支出	△193,777	△337,313
リース債務の返済による支出	△1,274	△1,517
その他	2,316	534
財務活動によるキャッシュ・フロー	107,264	281,804
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,925	852
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△186,919	164,144
現金及び現金同等物の期首残高	1,234,971	1,094,654
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,048,052	1,258,798

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	中間連結損益計 算書計上額 (注) 2.
	自動車産業 DX事業	ホリゾンタル DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,079,807	1,106,976	3,186,784	—	3,186,784
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,079,807	1,106,976	3,186,784	—	3,186,784
セグメント利益又は損失（△）	△189,858	263,380	73,522	△169,875	△96,352

（注） 1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△169,875千円は、主に各報告セグメントに配分していない
全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間（自 2026年1月1日 至 2026年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	中間連結損益計 算書計上額 (注) 2.
	自動車産業 DX事業	ホリゾンタル DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,494,742	1,244,071	3,738,813	—	3,738,813
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,494,742	1,244,071	3,738,813	—	3,738,813
セグメント利益又は損失（△）	△116,727	193,910	77,182	△165,169	△87,987

（注） 1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△165,169千円は、主に各報告セグメントに配分していない
全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

（取得による企業結合）

当社は、2026年7月23日開催の取締役会において、株式会社NEW PHASEの発行済株式の80%を取得し、子会社化することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。当該株式譲渡契約に基づき、2026年8月1日付で同社の80%の株式を取得し、同社を子会社化いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 株式会社NEW PHASE（以下、NEW PHASE社）

事業の内容 動画編集スクール事業、AI教育スクール事業、動画制作事業等

(2) 企業結合を行った主な理由

当社では、ホリゾンタルDX事業を通じて、これまで2,000社以上の企業に対するDX・マーケティングコンサルティング支援を行い、AI・DX領域の実務課題解決ノウハウを蓄積してまいりました。また、2026年7月1日には、当該ノウハウを個人向けに展開する実務特化型AIスクール「With AIアカデミー」を開講し、AI・DX知見のマネタイズチャネル拡張と中長期的な収益基盤の強化に向けた取組みを開始しております。

NEW PHASE社は、2024年の創業以来、動画編集スクール事業「STEP UP」を運営しており、SNSを活用した能動的な顧客獲得力、受講生に寄り添うメンターサポート、そしてカリキュラム企画から動画制作まで一気通貫で手掛けるコンテンツ制作力を組み合わせた事業構造により、短期間で高い収益性を実現しております。

NEW PHASE社の主力事業である動画編集スクール「STEP UP」と「With AIアカデミー」は、いずれも「実務で成果を出せるスキル」の習得を目的とした個人向けオンラインスクール事業であり、集客・カリキュラム・メンター運用の各面において高い親和性を有しております。当社としては、NEW PHASE社が構築したSNSを活用した顧客獲得の仕組みに、当社がホリゾンタルDX事業を通じて長年培ってきたWebマーケティングの知見を組み合わせることで、両スクール事業における集客チャネルの多角化と受講生獲得効率の向上を図ってまいります。あわせて、当社が既に展開する企業向けフリーランス人材提供サービス「Nyle X Partners」を通じて、両スクールの卒業生に対する実務活躍の場の提供を推進することで、教育から人材活用までを自社エコシステム内で完結させる構造を構築してまいります。

以上より、同社の株式を取得し当社の連結子会社とすることで両社の企業発展に資するものと考えております。

(3) 企業結合日

2026年8月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権の比率

80%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	36,000千円
取得原価		36,000千円

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 8,890千円（概算額）

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。